



ひと vol.3

～私の1ページ～



このコーナーでは、会員の皆さんの“ひと”にスポットをあて、普段では聞けないこだわりの趣味や、ご経歴、意外なプライベートをご紹介します。今回は、峰澤鋼機株式会社峰澤社長のご紹介で、株式会社太陽社柴田社長にお話をうかがいました。

長唄や三味線をたしなまれるとおききました

35歳の頃、取引先の社長さんに誘われ、長唄の稽古を始めたのがきっかけでした。初めは声も出ないし予想以上に体力を使うもので、正直「どうしようか」と思っていたんです。そんな時、家にあった三味線を見つけ、「三味線ならば声を出さずにすむかな」という思いもあり、長唄とともに三味線を弾くようになりました。5年程前からはお知り合いのお嬢さんから東京芸大ご出身の先生に三味線を教えていただく機会を持つようになりました。

また、落語寄席を見るのも好きで、昨年葵丘で落語のイベントを開催しました。また、父が昔よく嗜んでいた着物を自分もなるべく着る様にし、和の文化を感じ表現することを楽しんでいます。

その一方、娘がオペラを専攻し、新国立劇場の研修生になりました。全く違う文化ですが、また趣味が一つ増えたところです。



プロフィール

名 前：柴田芳孝氏 (1950年 岡崎生まれ)
 企業名：株式会社太陽社 代表取締役
 事業内容：店舗・ディスプレイ展示装飾、塗装工事、屋外広告・交通広告の企画、設計施工

フィルムコミッションの企画を検討されているとか

ハードではなく文化を…… “フィルムコミッション” を実現できたらと思っています。例えば、地域の歴史や逸話、景観や人物などの地域の資産を掘り起こし、映画により岡崎の魅力を全国に向け発信していく企画です。そうしたところ、映画「20世紀少年」や「まぼろしの邪馬台国」などを手掛けた映画監督 堤幸彦氏が所属する株式会社スクレッシュの社長 長坂信人氏が岡崎出

身の方で、協力依頼したところ快諾いただき、準備を進めています。

“岡崎を今後どういうまちにしていきたいか”、“岡崎の新たな観光資源は” などについて、特に若い人たちにもっともっと関心をもっていただけたらと思っています。

エネルギーの源は

厳しい時代こそ自分が試されていると思って、朝一番「今日も一日やるぞ！」と気合をいれること。矛盾だらけの世の中で最期に自分が生きた意味を“これだったかな”と思えるよう、毎日勤める事ができたらなと思っています。

若自氣意

(柴田氏 直筆)

企業連携が生んだ新製品 瓦を再利用した「リサイクルカラーコーン」

～(有)三浦園芸～

「最初は偶然の出会いでしたが、思いを語りあう中でベクトルが一致し、お互いに大変価値のある製品開発に結びつきました。今後も、アンテナを常にはりながら新しいチャレンジをしていきたいと思っています。」(三浦社長)

観葉植物の栽培・販売を手がける三浦園芸では、規格外の瓦を再利用した「リサイクルカラーコーン」を高浜の三州瓦メーカーと共同開発。環境に配慮した新しい取組みとして注目を集めています。

土のかわりに粘土を高熱で固めたハイドロボールを使った観葉植物製品をいち早く手がけてきた同社。しかしその材料は主に海外からの輸入に頼るのが現状でした。そんな時勉強会で出会った瓦メーカーの石川さんから「なぜ日本の焼物でつくりたくないの。」という素朴な疑問を投げかけられたことが今回のきっかけ。



瓦メーカーでは、規格外の瓦を粉末にした瓦粉の再利用についての課題を抱えており、それを三浦園芸のハイドロカルチャー製品として利用できないか2社で検討を進める中、大学との連携により、人工いくらを作る技術から今回の製品が完成しました。

水遣りは10日程に1回という高い保水性とともに、ラベンダー、レンガ、モス、キャメル4色のオシャレな色合い、また、地元の瓦を使っているというストーリー性ある展開が、女性はもちろん、男性のお客様の心をつかみ、好評を得ているということです。

「今後は、消臭機能や香りつきのリサイクルカラーコーンにも挑戦していきたいですね。また、コスト面を再考しながら、屋上庭園や保育園や学校の花壇などでも使っていただける製品にしていきたいと思っています。」(三浦社長)



代表取締役 三浦基彰氏